

絶滅 ミツガシワ科

ガガブタ

Nymphoides indica (L.) Kuntze

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 複数の調査で生育が未確認

【形態】 浮葉性の水生植物。草長0.5～2 m。葉は卵円形で、長径5～20cm。7～9月。水面に径1.5cm前後の花を開く。花冠裂片に長い毛があり、株によって雌しべが雄しべより長いものと短いものとの2型がある。秋に錨のような形をした大きさ3～5 cmの殖芽を作り越冬する。多年草。

【分布】 本州～九州、朝鮮、中国、東南アジア、オーストラリア、アフリカに分布。

【県内の分布、生育状況】 福島県植物誌(1956、旧版)に「勿来町はじめ県内各地の池沼中に生ず」という記録があるが、その後確認情報がない。

【主要文献】

小林 勝・鈴木貞次郎．1956．福島県植物誌・其五．104pp．福島大学学芸学部（謄写）．

絶滅 キク科

ネコノシタ(ハマグルマ)

Wedelia prostrata (Hook. et Arn.) Hemsl.

【選定根拠】 複数の調査で生育が未確認

【形態】 海岸砂浜に生育するキク科の多年草。地下茎をはわせ節から根を出す。葉は長楕円形で鋸歯縁、先端亜鋭頭、質厚く表面に剛毛を密生しざらつく。表面のざらつきがネコの舌を思わせることからこの名がある。7～10月頃、茎の先端に頭花を単生させる。頭花は径2cm程度、舌状花は黄色。群生する。

【分布】 国内では茨城県から四国、九州、沖縄、小笠原の海岸に生育。外国では台湾、インドに分布する。

【県内の分布、生育状況】 1970年に鈴木昌友博士により小高町、いわき市小名浜、豊間、久之浜、四倉が記録されている。しかしその後海岸開発や浸食により姿を消し再発見されていない。

【主要文献】

鈴木昌友．1970．茨城の植物．490pp．茨城新聞社．茨城．